平成２７年８月７日（金）　静岡新聞　朝刊　２０面

風邪薬から湿布薬 小学生が理科実験

葵区 静岡理工科大生指導

静岡理工科大の学生団体「お理工塾応援隊」は6日、静岡市葵区の静岡北中・高で小学生を対象に理科教室を開いた。市内から小学4～6年の35人が参加し、風邪薬から湿布薬を作る実験に取り組んだ。

大学生に教わりながら試薬を使う児童＝静岡市葵区の静岡北中・高

市販の風邪薬を細かく砕き、メタノールを加えるなどして湿布薬の主成分であるサリチル酸メチルを生成した。児童らはサリチル酸メチルが生じる様子をにおいや試薬を使った色の変化で観察し、「湿布のにおいがする」「（オレンジ色から）紫色になった」と歓声を上げた。

教室は同団体のイベント担当須田大成さん（21）を中心に、学生だけで企画、運営した。須田さんは「化学変化を色やにおいで感じることができる実験を選んだ」と話した。

静岡新聞社編集局調査部許諾済み